

立命館經濟學

第十六卷 第五・六号

昭和四十三年二月

内 容

論 説

- 過渡期における国家資本主義の諸形態……………手 島 正 毅 1
日本の近代化過程における貿易構造の変化……………清 水 貞 俊 45
ルール石炭鉱業の展開とプロイセン鉱業法(←)……………川 本 和 良 72
戦後炭鉱労働運動の展開過程(2)……………戸 木 田 嘉 久 119

資 料

- 自由民権期の府県会闘争(←)……………後 藤 靖 157
—参事院裁定書—

書 評

- 後藤靖著『士族反乱の研究』……………遠 山 茂 樹 213
学界動向…………… 220

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学 第十六卷・第二号

論説

金融資本における信用と国家……………小 牧 聖 徳
社会主義的分配関係の
本質について(一)……………小 野 一 郎

資料

フレット・エルスナー「独占価格と独占利潤」
キム・スンジュン『農地改革』後の南朝鮮農業政策
——南朝鮮における農地改革——

書評

今堀誠二著『毛沢東研究序説』……………松 野 昭 二

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第十六卷・第三・四号

論説

『資本論』初版以後と
その各国における普及状況……………長 谷 部 文 雄
『資本論』の周辺……………相 澤 秀 一
現代の恐慌とマルクス恐慌論……………小 椋 広 勝
初期マルクスの経済理論について……………岡 崎 栄 松
——『経済学Ⅱ哲学手稿』を中心として——
帝國主義論……………小 野 進
——シュンペーターとレーニン——

研究ノート

法学と経済学との中間領域にある

若干の問題(その一)……………梯 明 秀
——藤田勇氏の論文「法と経済との一般理論」
についての部分的紹介とそれについての備
忘録として——

資料

駱耕 漢『資本論』第一章第四節の要点と
疑問についての試論……………松 野 昭 二

——『経済研究』誌一九六三年第五期——

書評

手島正毅教授著

『日本国家独占資本主義論』……………豊 崎 稔

発行所 立命館大学経済学会